

**追分小 県組合がキャンペーン つくだ煮 知って食べて**

全国調理食品工業協同組合が定める 6 月 29 日の「佃煮の日」を前に、県佃煮組合（千田清隆組合長）は、潟上市の追分小学校でキャンペーン活動を行った。5 年生の児童約 80 人にクイズ形式でつくだ煮について説明したほか、全校児童に県内業者

が作ったつくだ煮やワカサギの唐揚げなどを配った。

伝統の味であるつくだ煮の認知度向上と消費拡大を目的に毎年実施している。今年組合員である潟上市昭和のつくだ煮業者 3 社の経営者ら 4 人が 19 日に追分小を訪れた。

クイズでは「現在県内につくだ煮製造業者は何社ある」「つくだ煮の製造が始まったのは何年前」などと出題。かつて 80 社ほどあった県内業者が現在は 8 社のみであることや、つくだ煮は 400 年以上前の江戸時代から保存食として食べられていたことを紹介した。

参加した櫻井豪君は「つくだ煮がそんなに昔からあると知ってびっくりした」と話した。

潟上市のつくだ煮製造業「千田佐市商店」の取締役千田浩太さん（31）は「若者に食べてもらわないと食文化は継承できない。県内の 8 社で協力しながらつくだ煮の周知に努めたい」と話した。（島田実侑）

（令和 5 年 6 月 28 日（水）秋田魁新聞より抜粋）